

名 称 所 在	用 途 (令別表)	発 生 日 時 等	構 造 ・ 階 層 面 積	焼 損 程 度 (焼 損 面 積 延 面 積)	死 傷 者
西武高槻 ショッピングセンター	百貨店  (4)	昭和48年9月25日	耐火 ㄨ	全・㊦・部・小	死者 6名
		出火6時00分ころ 覚知6時27分 覚知別 鎮火翌日2時00分	建 10,477.7m <sup>2</sup> 延 59,145.7m <sup>2</sup>	34,647.2m <sup>2</sup> (59%)	傷者 13名 (10)
大阪府高槻市 白梅町150-3					

I 火災概要								
① 概 要	開店を4日後に控え工事の完成諸準備を急いでいたショッピングセンターの地下1階から出火し6階建、延べ面積6万m <sup>2</sup> の60%余りを焼損し、死者6名、傷者14名をだし55億円余の損害額を出した大規模火災である。鉄骨耐火造建物であったが、長時間にわたり延焼拡大したため、梁がひどく曲ったり、コンクリート床が爆裂して穴があく等の相当の破損箇所がでた。							
② 階 別 状 況	階	床面積 m <sup>2</sup>	焼損床面積 m <sup>2</sup>	用途(売場)	在館者	死 者	避難設備等	消防用設備等
	PH	189.3					屋内直通階段 (B1~6F) 3箇所	③ ④ ⑤
	6	3,797.7	510	駐車場, 貸事務所, 飲食店	4		屋内部分階段 17箇所	③ ④ ⑤ B1~電気室 5F~駐車場
	5	6,511.8	0	駐 車 場 貸 事 務 所			屋外階段 (1F~5F)	③ ④ ⑤ B1~電気室 5F~駐車場
	4	9,774.1	9,744.1	売 場	16	2	2箇所 その他の	③ ④ ⑤
	3	9,601.7	9,601.7	売 場 ・ 銀 行	6		屋外階段 3箇所	③ ④ ⑤ 自 非 放送
	2	9,722.2	9,722.2	売 場 ・ 銀 行	21			③ ④ ⑤ 非 放送
	1	10,476.5	218	売 場 ・ 銀 行	11			③ ④ ⑤ 連
	㊦	9,502.0	4,851	売 場 ・ 機 械 室	15	4		③ ④ ⑤ 排
	合計	59,145.7	34,647.2		73	6		
③ 出 火 場 所	(階, 室, 部位, 可燃物状況, 居室・非居室, 在・不在) 地下1階北側中央部付近(推定)から出火 開店を4日後に控えて商品等が搬入されており, 加えて室内仕 上げ用建材等が搬入されており多量の可燃物があった。当時地 階では, 宿直室で8名, 発電気室で2名, 店舗中央で2名が仮 眠中であった。				④ 出 火 原 因	不 明		

⑤ 火 災 の 延 焼 経 路 等	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">(出火部位) 地下1階北側 中央部付近</div> <div style="text-align: center;">(出火室の拡大) ダンボール箱 (商品等)</div> <div style="text-align: center;">(出火階の拡大) 工事の都合で 開放されてい た防火区画</div> <div style="text-align: center;">(他階への拡大) 北側中央 エスカレーター 開放部分</div> </div>			
	<p>出火階に搬入されてあった商品がつつぎに燃え広がり、火勢を強め地階内を燃え広がった。北側中央エスカレーターのシャッターが開いていたため、この開口部分を通じてドラフト現象を生じ一挙に延焼拡大した。このエスカレーターは1階では閉鎖してあったが他のエスカレーター部分が開かれていたため、1階に燃え広がることになった。</p> <p>上階部分はシャッターが開放されていたのが原因で延焼拡大を速めた。</p>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 延焼拡大した主な理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 出火階には、ダンボール箱（商品）が多量に搬入されていた。</li> <li>○ 出火箇所付近のエスカレーター吹き抜け部分を通じてドラフト現象を生じ一挙に上階へ延焼拡大した。</li> <li>○ 火災の通報が遅れた。</li> </ul> </li> <li>○ 煙の伝播経路 <ul style="list-style-type: none"> <li>北側中央エスカレーターから上階へ一挙に上昇するとともに、地階で充満した濃煙は、他のエスカレーター階段等の開口部から上昇した。</li> </ul> </li> </ul>				
<b>II 火災建物概要</b>				
① 建築	着工・竣工又は主たる改築等 (同意確認) 昭和47年8月30日 (開店予定) 昭和48年9月29日			
管 理 状 況	<b>② 縦 穴 の 状 況</b>	<b>③ 防 火 管 理 状 況</b>		
	階 段 <input checked="" type="checkbox"/> ダクトスペース <input type="checkbox"/> エレベーター <input checked="" type="checkbox"/> パイプシャフト <input checked="" type="checkbox"/> エスカレータ <input checked="" type="checkbox"/> その他( ) <input checked="" type="checkbox"/> <hr/> 屋内階段、エレベーターシャフト、エスカレーター、パイプシャフト、吹き抜け部分については防火区画されていた。	安全衛生管理計画書の中に防火計画を定めてあったが、消防機関への届出はなかった。ある程度の防火教育・訓練は行われていたが工事完了近くになってからは、防火管理又は工事管理の体制が確立されていなかったため、総合的な管理・監督又は指導が行われていなかった。		
状 況	<b>④ 防 火 区 画 等</b>	<b>⑤ 消 防 用 設 備 等</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 面積・縦穴等の区画の他に、銀行部分との区画があった。</li> <li>○ 区画のシャッターは煙感知器連動（非常電源を有する）、扉は熱感知器と連動の自動閉鎖装置付であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スプリンクラーは工事終了後で制ぎょ弁を開放しておかなかったため散水不能の状態であった。</li> <li>○ 屋内消火栓・自動火災報知設備・非常用放送設備等は工事中であった。</li> <li>○ 避難器具は設置していなかった。</li> <li>○ 連結送水管は工事完了し使用可能であった。</li> </ul>		

III 火災後の行動		
① 発見状況	<p>○発見者 (宿直者)</p> <p>○発見の動機 (電気系統警報装置の鳴動)</p> <p>○発見後の行動 (仮眠中の者を起こす)</p>	
	<p>地下1階の中央監視室で仮眠していた宿直者Iが電気系統の異常を知らせる警報装置の警報音により目をさまし、電源がしゃ断されているのを確認し、スイッチを入れたが瞬時にしゃ断されたため、故障箇所確認のため室外に出たところ、煙が充満していた。</p> <p>異常に気付いた宿直者は、廊下を隔てた仮眠所で仮眠していた者を起こした後、通路伝いに階段に向ったが迷ってしまい冷凍室付近でうずくまっていたところを宿直室で仮眠していた者に助けられ階段から避難している。</p>	
② 通報状況	<p>通報した <input type="checkbox"/> 出火後約( 27 )分</p> <p>通報しない <input checked="" type="checkbox"/> (通行人から通報されている)</p>	
	<p>○6時27分に火災報知専用電話で、通行人の女性から「西武百貨店が火事です」と通報されている。</p> <p>○建物内部では4階にいた作業員が6時17分頃(推定)うすい煙を感知し、1階警備員詰所へ通報しているほかは、火災を発見したり感知した者から周辺にいた一部の作業員等に口伝えされた程度であった。</p>	
③ 初期消火状況	<p>成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/></p> <p>消火した</p> <p>○消火時期 <input type="checkbox"/></p> <p>○消火困難性 <input type="checkbox"/></p> <p>○消火方法 <input type="checkbox"/></p>	<p>(理由又は状況)</p> <p>発見が遅れ、初期消火の時期はすでに過ぎており、避難するのにやっとであった。</p>
	<p>○消火時期 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>○消火困難性 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>○消火方法 <input type="checkbox"/></p> <p>○その他 <input type="checkbox"/></p> <p>消火しない</p>	
④ 消火活動概要	<p>(消防上の支障・困難性等)</p> <p>○消防隊到着時、地下1階の見通せる範囲はすでに全面延焼中で噴出する火煙により内部進入は不可能な状況であった。</p> <p>○出火建物関係者からの情報提供が適切でなかったうえ、工事中で使用検査・警防調査も行っていなかったため、内部の状況把握が困難であった。</p> <p>○大規模無窓建物であるうえ大量の可燃物が搬入されていたため消防活動は、悪戦苦闘の連続で鎮火まで20有余時間もかかった。</p>	

	避 難 方 法	避 難 上 支 障 事 項
⑤ 避 難 状 況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○階段を利用 <input checked="" type="checkbox"/> ( 33 人)</li> <li>○エレベーター、エスカレータ利用 <input type="checkbox"/> ( 人)</li> <li>○避難器具を利用 <input type="checkbox"/> ( 人)</li> <li>○窓、開口部から直接地上へ <input type="checkbox"/> ( 人)</li> <li>○救 助 <input checked="" type="checkbox"/> ( 8 人)</li> <li>○その他(スロープ、工事用足場・ロープ) <input checked="" type="checkbox"/> ( 15 人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○無 窓 <input type="checkbox"/></li> <li>○開口部の格子等 <input type="checkbox"/></li> <li>○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/></li> <li>○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良、機能不良、未設置)</li> <li>○停 電 <input type="checkbox"/></li> <li>○その他 <input type="checkbox"/></li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○出火当時建物内には 73 名の作業員等が開店準備の作業をしていた。</li> <li>○避難は、1階にいて出入口から出た者 11 名、階段を使った者 3 3 名、工事用足場を伝って避難した者 6 名、スロープを下りて避難した者 8 名、ロープを使った者 1 名であった。</li> <li>○消防隊の梯子車によって、4 階・5 階で逃げおくれた 8 名が救出された。</li> </ul>	
⑥ 死 者 の 状 況	健康人 6 名 (泥酔者 名) 要保護者 名 乳幼児 名 高齢者 名 身体不 自由者 名 病人 名	避難上支障となった事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>○無 窓 <input type="checkbox"/></li> <li>○開口部の格子等 <input type="checkbox"/></li> <li>○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/></li> <li>○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良、機能不良、未設置)</li> <li>○停 電 <input checked="" type="checkbox"/></li> <li>○その他 <input checked="" type="checkbox"/> (仮眠中)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地階で死亡した 4 名のうち 3 名は宿直室で仮眠中であった。発見者に起こされ、避難しようとして宿直室を出たが停電していたのと濃煙のためポンプ室に迷い込み倒れたものと推定される。他の 1 名は電気室で仮眠中煙に気付き同僚を起こし濃煙の室内をうろついているうち逃げ場を失い発電機室で倒れているところを消防隊により救出されたが病院搬送後死亡した。</li> <li>○4 階で死亡した 1 名は、照明工事中に火災に気付き、避難しようとしたが食堂付近で逃げ場を失い中央階段付近で倒れたものと推定される。4 階で死亡したもう 1 名は、売店内で仮眠中、誰にも起こされなかったため、気付いた時には濃煙で逃げ場を失い倒れたものと推定される。</li> </ul>	
<b>IV 問題点・教訓等</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建築・設備が工事未了のまま使用の準備状態にあり、大量の商品が搬入されていた。</li> <li>2. 防火区画を構成する甲種防火戸(シャッター)に付置した連動用煙感知器の電源が工事中に発生するほこり等による誤作動防止のため、シャ断されていた。</li> <li>3. スプリンクラーの全ての制ぎょ弁が工事のため閉鎖されていた。</li> <li>4. 自動火災報知設備・放送設備は仮配線で工事・試験等を進めていたが当時電源がシャ断されていた。</li> <li>5. 開店を 4 日後に控え、工事業者および施主側・テナント側等から合わせて 1,000 人をこす作業員が送りこまれており、一部では徹夜突貫工事を行っているような状況で、全般的な作業内容・作業員等を把握しているところはなく、防火管理の徹底を欠いていた。</li> </ol>		



